

平成29年

敬老作文集

敬老作文コンクール入賞者の表彰と最優秀賞を受賞された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行われました。

例年同様に、井川小学校2年生並びに5年生、井川中学校2年生を対象として敬老作文の応募をいただき、小・中学生の部それぞれより、最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞2点の計10点の入賞作品が決まりました。

入賞された方々の敬老作文を、ご紹介します。

小学生の部

最優秀賞

やさしき、思いやり大切に

井川小五年 伊藤 楓乃音



伊藤 楓乃音 さん
(今戸)

私のおじいちゃんのしゅみは写真をとることです。写真をとってプレゼントしたり、町の行事のときに、公民館にてんじしています。写真をプレゼントするおじいちゃんのすがたは、まるでみんなに思い出をプレゼントしているようです。また写真をまじめにとるおじいちゃんのすがたは、プロのカメラマンのようです。私もおじいちゃんから写真をよくもらいますが、おじいちゃんの写真で好きなどころは、メインの人や物、植

物を大きく写して、まわりをうつすら写して、その場の様子が分かり、その人がどんな感じようか分かるような写真がたくさんあります。私が気に入っている写真は、「スーパームーン」の写真です。写真の中でもとても大きいことが分かります。もう一つすごいと思うのは、町、町内、学校の行事のときに、写真をたくさんとってパソコンで写真を組み合わせて、大きな写真をつくっています。私はおじいちゃんのことをすごく自まんとしたいです。書ききれないほどありますが、写真のことが一番すごいと思いました。おじいちゃんはやさしき、思いやりを持っていきます。そういつたおじいちゃんの良いところを大切に、これから元気なすごしてほしいです。私にとって最高度とつてもすてきなおじいちゃんです。これからもおじいちゃんをすごいと思う気持ちは、かわりません。

優秀賞

世界一のおばあちゃん

井川小五年 森田 あんり



森田 あんり さん
(小今戸)

おばあちゃんは、毎日とっても、がんばっています。毎日、畑仕事していたり、毎日、ペットの世話をしていたり毎日大変なおばあちゃん。それでも、わたしの話を聞いてくれるやさしいおばあちゃん。休む時間は、あまりありません。家は、ワイワイ、ガヤガヤうるさいけれど一生けん命がんばってくれるおばあちゃん。「毎日、毎日やってつかれないのかなあ。わたしだったら、一回、二回ぐらいやってつかれて、やめるけどな。」何でだろうと思いましたが、どうやってたら毎日、毎日がん

ばれるのかな。

おばあちゃんに、友達がいっぱいいます。ときどき家におばあちゃんや友達に来ます。おばあちゃんや友達とは、野菜をもつてきます。何で野菜をくれるのか考えました。もしかして、おばあちゃんやみんなに、やさしくしているからかなと思いました。この理由以外の理由もあるかもしれないけれど、わたしは、この理由だと思いました。

おばあちゃんは、おどりをやっています。この前、おどりの発表会がありました。おどっているとき、おばあちゃんは、笑顔で楽しそうにおどっていました。楽しさは、観ている方にも伝わりました。笑顔は、パワーをくれます。わたしは、みんなの笑顔を見るとうれしくなります。多分、おばあちゃんやわたしと同じで、みんなの笑顔を見るとうれしくなるのだと思います。それが「毎日、がんばれる理由。」なのだと思います。わたしにとっておばあちゃんは、世界一のおばあちゃんです。

大好きなおじいちゃん、

おばあちゃん

井川小二年 いとう わこ



伊藤 和琴さん
(街道)

わたしはおじいちゃんとふだんは会えないけれど、夏休みなどに行くと、

「よくきたね。」

とやさしくむかえてくれます。

おじいちゃんは、カラタチやかりん、ナツメをそだてています。カラタチは、とてもいいかおりです。かりんはジャムにします。おじいちゃんといっしょにつくるジャムは、とてもおいしいです。ナツメは、りんごのようにおいしです。おじいちゃんのおいしくだものは、とてもおいしいです。おじいちゃんはやさいもそだてています。わたしはしゅうかくの

ときにてつだいます。

「ありがとう。」

とおじいちゃんは言ってくれます。おじいちゃんのおいしかったトマトやえだまめ、ピーマンをたべると、こころがあたたくくなって、あんしんできます。わたしは、そんなおじいちゃんが大スキです。わたしのおばあちゃんは、あいじょうたつぷりです。おばあちゃんのおいしくは、あいじょうたつぷりで、とてもおいしいです。

おばあちゃんは、週に一回ぐらい日本にきたが、いこくの人に、日本語を教えています。おばあちゃんのおいしくは、みんなのやくにたつので、とてもいいと思います。

おばあちゃんは、わたしのおようふくをつくってくれたり、なおしてくれたりします。そのふくをきると、とてもあんしんします。

あいじょうたつぷりでやさしく、人のやくにたつているおばあちゃんが大スキです。

おじいちゃん、おばあちゃん、わたし、がんばるね。だから、あんしんしてね。そしてこれからも

元気で長生きしてね。わたしもおうえんしているからね。

優良賞

私にとっておばあちゃんは：

井川小五年 松田 未空



松田 未空さん
(新屋敷)

私のおばあちゃんは、八郎潟町に住んでいます。毎年お正月に遊びに行くと、必ずおばあちゃんは、「未空くん！」と言いながら「ぎゅっ。」とだきしめてきます。まるで初めて会ったかのように。さつそく家に入ると、ごちそうがたくさんならんでいます。必ず私の好きな物があります。おばあちゃんの作った物は全部おいしいです。でもとくに好きなのは、エビフライです。食べた後には、折

り紙、クイズ、テレビを見たりしています。折り紙では、私に教えてくれたり、私が教えたりします。おばあちゃんは、折るのがとてもきれいです。私はとてもびつくりしました。ほかに、私は、陸上をやっているのでも陸上の話などもします。この前、県大会の決勝で負けたので、来年はおばあちゃんも連れてって、決勝で勝ちたいです。私のおばあちゃんは、とつてもやさしい人です。悪いことをしても、必ずおこらない。毎回、私をかまってくれている。こんなにやさしくしてもらって、こんなに、私はめいわくかけてばかり。私はいままで、何とも思わないでいました。でも、今になって私は、「ちゃんと感しゃしないといけない。」

と思いました。これからは、しっかりお手伝いなどをしっかりやり、おばあちゃんを少しでも楽しませてあげたいです。

「いつもありがとう。おばあちゃん♡。」

わたしのだいすきなおばあちゃん

井川小二年 森田 かりん



森田 かりん さん
(小今戸)

わたしのおばあちゃんは、わたしがこまっていたら、そうだんをきいてくれるやさしいおばあちゃんです。

わたしがあきたにひっこしてきたくとき、

「ともだちができるかしんぱいだよ。どうしたらいいかな。」

と、おばあちゃんにそうだししました。あばあちゃんは、

「だいじょうぶだよ。」

と、わたしがこまっていることをぜんぶきいてくれました。わたしは、それがとてもうれしかったです。

「おばあちゃん、ありがとう。わたしになにかできることがあった

らなんでも言つて。」

と言いました。

「かりん、じゃあ。」

「なに。おばあちゃん。」

「じゃあ、かたもみしてくれないかな。」

「いいよ。どこをもめばいい。」

わたしは、ききました。

「そうだね。かたのどこでもいいよ。」

と言いました。わたしは、がんばつてもみました。

「きもちいいよ。ありがとう。」

と、おばあちゃんがいました。

わたしは、そう言ってもらつて、

ところがぼかぼかしてきました。

わたしは、

「こちらこそありがとう。」

と言いました。おばあちゃんは、

「かたがぼかぼか、ここもぼかぼかしてきたよ。」

と言ってくれました。

わたしは、そんなおばあちゃんが大すきです。



【最優秀賞／伊藤楓乃音さん】



【敬老式で立派に朗読発表】

中学生の部

最優秀賞

大好きな「大家族」

井川中二年 森 田 楓 子



森田 楓子 さん
(小今戸)

私は、井川町のお爺さん、お婆さんたちが大好きです。

登下校の途中にすれ違うお爺さん、お婆さんたちは、朝に私が「おはようございます」と言うと「おはよう」と返してくれたり、「がんばってこいよ」と言ってくれたりします。帰りには、私が「がんばんば」と言うと「こんばんは」と返してくれたり、「おっ、今帰るところだが、気をつけて帰れよ」と言ってくれます。私はこの何気ない会話が大好きです。まるで、家に帰ってきたような暖かい気持ち

ちに包まれて、とてもホッとします。

今年の五月に行われた、町内花壇の花植えでも、小今戸老人クラブの方たちがどしゃぶりの中、一人一人にいていねいに植え方を教えてくれました。小今戸老人クラブの方たちは植え方だけでなく、楽しい会話も交えてくれました。どしゃぶりの中でやる気が低下してきていた私も、会話のおかげでも楽しく笑顔で作業することができました。

井川町は人口四九〇〇人程度の小さな町です。他の市町村から見たら「小さな町」かもしれませんが、私はそうは思いません。私は町中から「おかえりなさい」や楽しい会話が聞こえてくるこの町は、一つの大きな家で、井川町の住人が、一つの「大家族」だと思っているからです。

小学校の時、私はクラブ活動で郷土料理や囲碁、将棋を地域の方々から楽しく教えてもらいました。中学校では、そういった機会があまりないので、寂しく思っています。

優秀賞

本当の気持ち

井川中二年 児 玉 椋 汰



児玉 椋汰 さん
(中下村)

来年から義務教育学校が新しくスタートします。子ども達だけでなく、お爺さん、お婆さんが気軽に足を運びたいくなるような学校になつてほしいと思います。私はこの井川町、「大家族」が大好きです。そして、この「大家族」を支えてくれている、お爺さん、お婆さん、本当にありがとうございます。

僕の祖父母は、ずっと米づくりをしています。毎年毎年、広い田んぼを二人でシーズン中は毎日のように手入れしています。

小さな小さな種からじっくり愛情をこめて作ったお米は、秋にな

るころには黄金色に輝く稲穂になります。僕からみるとその稲穂はどこの田んぼの稲穂よりもおいしそうに輝いてみえます。僕は、そんな祖父母が作るお米がだい好きです。どこの店のお米よりも数倍おいしいと思っています。そんな祖父母との思い出は小学生のときに三人で山登りをしたことです。一歩一歩ゆっくりと何時間もかけて歩くのは今思い出すとすてきな時間だったなと思います。とくに山頂で食べたおにぎりはとてもおいしかったです。そのおにぎりも祖父母が作ったお米です。でも、最近は話すときに口ゲンカになってしまうことがふえてきてしまつて「ありがとう」の一言がなかなか言えません。それどころかケンカ口調でひどい言葉を投げ捨ててドアを強くしめたりしてひどい態度をとつてしまっています。後から後悔してもなかなかあやまれなかつたりします。よく考えてみるとケンカの原因が自分のやつあたりだったりします。毎日毎日、お米を作ってもらつたり、あたりまえのように生活できたりお風呂に

入ったり、いつもしていることが、
祖父母にささえられていることが
分かりました。

僕は、小さなころから今まで、
数えきれないほどたくさん心配
や迷惑をかけてきました。だから
これからは少しでも手伝いをして
楽をしてもらいたいです。また、
口ゲンカになつてしまつてもすぐ
にあやまりたいです。

二人のその元気やパワーをひき
ついで学校生活をおくりたいで
す。本当は大好きで感謝していま
す。いつもありがとうございます。



【最優秀賞／森田 楓子さん】

これからもよろしく。

感謝することの大切さ

井川中二年 児 玉 明希保



児玉 明希保 さん
(小竹花)

私のひいおばあさんは九十七歳
の長生きでした。とても元気に、
笑顔で働くひいおばあさんでし
た。そんなひいおばあさんから学
んだことがあります。

私のひいおばあさんの一日は日
がのぼるころから始まります。朝
早くから草取りをして日がおちる
ころまで畑で働きます。十三歳の
私でさえとてもつかれると思うの
に毎日元気につつけていたひいお
ばあさんは凄いなと思うし、素直に
尊敬します。自分は体が弱い部分
があるので見習いたいです。

私が高学年になるにつれけんか
も増えました。いつも私が原因で

けんかが起きてしまうのに、ひい
おばあさんはいつも自分からあや
まってくれました。なのに私は泣
いてばかりでほとんどあやまるこ
とが出来ませんでした。今はもう
ひいおばあさんと話すことすら出
来ないので、けんかをしてしまつ
たこと、自分からあやまることが
出来なかったことをとても後悔し
ています。

私はこのような体験から身近な
事に対しての感謝を忘れないよう
にすることを学びました。日常生
活で後悔したことはひいおばあさ
んという身近な存在に感謝出来な
かったからだと思います。ひいお
ばあさんが朝早くから休まず働い
ていたのもきつと仕事が出来ると
いう身近な幸せに感謝を忘れてい
なかつたからだだと思います。この
他にもたくさんこのことをひいおば
あさんから学びました。今私は勉
強や部活、日々の生活をなに不自
由なくできています。しかしこの
ような日常は先輩や先生、家族に
支えられてできているので身近な
人への感謝などを忘れないように
したいです。また、このようなこ

とに気づかせてくれたひいおばあ
さんにも感謝をしたいです

優良賞

私の夢。私の宝物。

井川中二年 高 橋 彩 音



高橋 彩音 さん
(新 間)

私の祖母は、私が夢を持つずつ
と前から、将来秋田から出るこ
と、アイドル、歌手、声優、タレ
ントなどになることを、あまり良
く思つてはいませんでした。だか
ら、ダンサーとしてアーティスト
になりたいという夢を見つけたと
き、「絶対おばあさんに反対され
る。」そう思いました。

ダンスをはじめたのは中一。私
が家で踊っていると、来て一緒に
体を動かしたり、発表会の時は見
に来てくれたりしました。私が

思っていたこととは逆に、彩音が
楽しければそれでいい。好きなこ
とを一生懸命やればいい。そんな
ことをよく言ってくれました。

夢のために仙台に言い始めたの
は今年。学校に迎えに来てくれた
ときなど、二人になったとき、祖
母は、アーティストになることは
簡単じゃないということや、もつ
と他の道もあるということの色々
話してくれました。対立すること
もたくさんあったけれど、結局は、
「とりあえず一生懸命頑張れ。」
「ママとパパに感謝して、いつか
お返しできるようにね。」

そんなことを言ってくれまし
た。絶対反対されると思っていた
私にとつて、祖母の一つ一つの言
葉がとても大切な宝物のように思
えました。きつとこれからも祖母
と対立することがたくさんあるか
もしれないけれど、そんな時こそ
祖母の言葉をちゃんと聞いて宝物
を増やしていきたいです。そして
いつか、秋田から出て遠くへ行つ
ても、祖母の光のような存在にな
れるように頑張りたいです。

祖母と共に過ごす楽しい日々

井川中二年 板垣 栄光



板垣 栄光さん
(坂本)

私の祖母は、フラダンスを十二
年前からしています。月二回、環
境センターで元気に楽しく活動し
た後、自宅に帰ってきたときは、
いつも、学んだこと、印象に残つ
たことを、家族に笑顔で教えてく
れます。

以前、井川町のさくら祭りでもフ
ラダンスを披露したときがありま
した。そこには、堂々と踊る祖母
がとても心に残りました。祖母
は、フラダンスの練習に行く前に
目標を立てます。どんなに小さい
目標でもそれに全力で向かう姿勢
には、日々、心に響きました。

祖母には、フラダンスの他にも
得意なことが二つあります。

一つめは、編み物です。私が小

さいとき、体に合ったチョッキを
作ってくれました。それは、今で
も私の宝物です。祖母は、色彩豊
かな糸糸で、世界に一つしかない
作品を作ることができるので想像
力がとても豊かな人だと思います。

二つめは、フレンドリーなこと
です。祖母は、「友達がいること
で自分にできないことを補うこと
ができる」と言っていました。私
は、友達がいることで、お互いの
能力を高めそして分かち合うこと
ができると思いました。

私が五歳のときに祖父が亡くな
りました。私は少ししか覚えてい
ませんが、祖母はひどく悲しんだ
そうです。しかし、祖母は元気で
す。毎日、笑って過ごしています。
きつと、その笑顔には、辛い思い
出を乗り越えた強い意志があった
のだろうと思います。

祖母には日々、感謝の気持ちで
いっぺいです。祖母からは、手伝っ
てくれたり、教えてもらったりと
常に助けてもらっています。しか
し、次からは、私が祖母を助ける
ことができるよう努力します。亡



おじいちゃん
おばあちゃん
これからも、
末永く、お元気で
お過ごしください！

なくなった祖父の分も長生きしても
らうよう、どんなに小さいことでも
率先して行動して、祖母と共に
楽しい生活をしたいです。